

九頭竜ダム湖内での赤潮の発生について

7月10日(日)の巡視中に九頭竜ダム湖内で、水面が変色していることを発見しました。

7月11日(月)に水面変色箇所の巡視を行った結果、荷暮川・伊勢川・米俵谷・久沢川・会所谷で水面が変色していることを確認しました。

変色箇所の長さは、九頭竜川支川【荷暮川 発生延長 約1000m、伊勢川 発生延長 約1800m、米俵谷・久沢川・会所谷 各発生延長 約400m】です。

水面変色の原因調査のため、変色箇所の代表3箇所(荷暮川、伊勢川、米俵谷)について、水質委託業者【(財)北陸公衆衛生研究所】による水質調査を実施しました。

水質調査の代表3箇所(荷暮川、伊勢川、米俵谷)について顕微鏡で観察した結果、渦鞭毛藻のペリディニウム属を確認しました。北陸公衆衛生研究所長によると、今回の異常発生については、6月末から7月初めにかけての大雨により栄養塩を含んだ濁水が流入したところに、日照、水温等の条件が重なり、ペリディニウムが異常増殖して淡水赤潮が発生したものと推察され、人体や生物、魚類等への影響を与えるものではないとの見解です。

現在、ペリディニウム属の種の同定を行っています。

一方、真名川ダム赤潮については、6月上旬にはほぼ消滅し6月28日の顕微鏡による観察結果では、淡水赤潮の原因であるペリディニウムは確認できませんでした。

以上

九頭竜ダム 位置図
[平成 17年 7月 11日現在]

